

平成26年度第1回地域貢献推進委員会議事要旨

○日時：平成26年9月10日（水） 13:30～15:00

○場所：大学本部棟2階 第二会議室

○議題：【審議事項】

- (1) 地域貢献推進委員会の今後の活動について
- (2) その他

【報告事項】

- (1) 大学COC事業（RCC事業）の取組と今後の計画について
- (2) 自治体等との包括連携協定締結について
- (3) 琉大21世紀フォーラムについて
- (4) 各部局の取組について
- (5) OISTとの連携について
- (6) その他

○出席者（13名）：外間登美子（地域国際連携担当理事・副学長、委員長）、多和田眞吉（産学官連携推進機構副機構長）、真栄城勉（生涯学習教育研究センター長）、狩俣繁久（法文学部教授【代理出席】）、青木一雄（医学部教授）、屋我実（工学部教授）、芝正己（農学部教授）、新里尚也（熱帯生物圏研究センター助教）、舟木慶一（総合情報処理センター講師）、佐々木香代子（留学生センター准教授）、西本裕輝（大学教育センター准教授）、飯田昇平（附属図書館事務部長）、大濱善秀（総合企画戦略部長）、下地正勝（総合企画戦略部地域連携推進課長）

○陪席者：宮里大八（RCC事業本部特命准教授）、山田美都雄（RCC事業本部特命助教）

許田正勝（地域連携推進課課長代理）、大城光雄（地域連携推進課地域連携推進係長）

◆審議事項

- (1) 地域貢献推進委員会の今後の活動について

事務局から、資料1～資料6に基づき審議事項1「地域貢献推進委員会の今後の活動について」及び報告事項1「大学COC事業（RCC事業）の取組と今後の計画について」について併せて説明があった。

審議の結果、本委員会の今後の活動における本委員会とRCC事業本部との役割分担については、次回以降の委員会へ継続審議となった。

【各委員からの意見】

- ・RCC事業と地域貢献推進委員会との仕分けについて、目に見える方が分かりやすくなる。何をどうすべきかの提案もしやすくなる。大学全体でどのような地域貢献活動をしているのか見えてこない。報告書で挙げられた提言と課題について、本委員会が解決したのか、RCC事業本部が解決したのか分かりにくい。2つの組織の関係などもっと見

える方が良い。

- これまで、地域貢献推進委員会として取り組んで来たことを、文科省の補助金を獲得し、大学全体として取り組んで来た。基本的には、地域貢献推進委員会とRCC事業が連携し、各学部へ普及したり、学部の取組も取り入れることとなる。補助金が切れた場合には、また元に戻ることになる。その時に、地域貢献推進委員会として、どのようにやるのかを考える必要があるのでは。
- COC事業は補助金として平成29年度まで実施することとなっているが、補助金も減額される可能性がある。資料3の5頁にもあるように、本委員会は第2期中期目標の達成に向けた取組をやらなければならない、その下に、RCC事業本部が、実働部隊となって活動し、それに向けて本委員会からの助言や提言を受けて実施することとなる。また、本委員会の規程第7条に、各部局に地域貢献支援委員会を設置することとなっておりそれぞれの学部から取組の報告や、提案が出されるものとする。COCとしてできないことを、本委員会がやっていくのではないか。
- 本学の地域貢献の在り方として、ハード面はサテライトキャンパスを設置した。ソフト面を今後構築していくものと思う。本委員会や各学部がこれを提案していくものとする。
- 各学部には、地域貢献支援委員会があるので、そこと全学委員会との連携が必要。また、新たに立ち上げたRCC事業本部と各学部の地域貢献支援委員会との連携を密にする必要があるのでは。個別に教員に依頼しているのであれば、各学部の地域貢献支援委員会に対し、組織として依頼すべきではないか。
- 各学部とRCC事業本部あるいはこの委員会との連絡を密にするために、ワーキンググループなどが必要ではないか。各学部では色々な教員の情報を持っている。必ずしも、地域貢献支援委員会の委員長である必要はなく、もっと実働部隊的なワーキングが必要ではないか。学部を越え、コーディネートとすることも可能ではないか。このような会議は、毎月ではできないので、ワーキングとすることで、頻度が上がるのではないか。
- 週一回開催されるRCC事業本部のコアメンバーによる定例ミーティングに各学部の教員が入ることも考えられるのでは。
- 同じような委員会が2つあるのであれば、1つは休止することも考えてはどうか。以前は、委員会を減らすという方向でやっていたが、最近、委員会が増えている。例えば、COC事業が続いているうちは、本委員会は休止するなどの考えがあっても良いのでは。各学部には既に地域貢献支援委員会があるので、その委員が、RCC事業本部に月1回出席するなどの方法をとるのではどうか。
- 第2期中期目標に向けた計画があるので、この委員会をなくすことはできない。この委員会に活動を報告することは必要だと思う。実働はRCC事業本部が担うことはできると思う。
- RCC事業は特化して実施していくので、各学部が実施している地域貢献活動については、集約する必要があり、全学的に活動を確認する必要があるのではないか。

◆報告事項

(2) 自治体等との包括連携協定締結について

下地委員から、資料7に基づき、各自治体等との包括連携協定の締結状況及び連携事業等について報告があった。

(3) 琉大21世紀フォーラムについて

下地委員から、資料8に基づき、平成26年度の琉大21世紀フォーラムの実施状況について報告があった。

(4) 各部局の取組について

・飯田委員から、資料9に基づき、久米島で開催予定の附属図書館・資料館の企画展(案)について報告があった。

・新里委員から、8月末に熱性研主催で開催された市民公開講座のシンポジウム及び9月13日開催予定の公開展示について報告があった。

(5) OISTとの連携について

下地委員から、資料10に基づき、OISTと琉球大学との地域連携に関する副学長懇談会の実施状況について報告があった。

以上